学びの広場

今年は8月25日(土) 観光まつりの夜に点灯

百八ッ火 六夜会の活動

※雲の峯が崩れ、夏も終わりに近づく頃、松田山の頂きに夜空を焦がして一〇八体の松明（たいまつ）が灯される。いつの頃、誰れが、どういう理由で始めたか、それは定かではない。

松田城主と家臣が落城のとき、農民が道案内に送り火を焚いたとか、害虫を山頂に集め、西郡（ごうり）（今の足柄平野一帯）四万石の五穀の豊穣を願う農民の素朴な祈りが籠められていたとか、小田原藩主が城楼から望んで暑気を払ったとか、度重なる酒匂川の出水による犠牲者慰霊のためとか、いづれにせよ、一〇八という数が仏教の一〇八煩悩に関連し、八※月二十六日の晩景に彩りを添える。

「六夜の松明」には、人々の心の奥にものの哀れを訴えずにはおかないものがあります。私達は、今日まで長い間に亘り、この美しき伝統を松田の誇りとして永々と心を籠めて守り続けてまいりました。願はくばこれを後世に伝え、六夜の灯が夏の夜空の松田山の頂きから絶えることの無きよう、後に続く人々の有ることを信じ心より祈るのであります。

――石碑『松明の由来』より――

※「雲の峯」は積乱雲・入道雲
※現在は「まつだ観光まつり」の夜に点灯

山頂からの百八ッ火（昨年度）

石碑『松明の由来』松田庶子六夜会
丙寅　孟夏（昭和61年７月20日除幕）

いよいよ点火

まずはきれいに
危ない樹木は伐採します

点火用の道具を持ち、担当場所へ
移動する六夜会のメンバー

灯火台の中　棒にタオルを巻いて芯を作り
30分間燃えるように工夫しています

灯火台に灯油を注ぎます

六夜会について

会長　川本　光一

私たち「六夜会」は、まつだ観光まつりのイベントとして参加するのはもとより、松明灯火台周辺の美化清掃を中心に、冬季は雑木の伐採、夏季には雑草の草刈りなどに努めています。また、点火時に使用する鍋や灯火台の清掃、サビ落とし、サビ止め作業は大変で、手間のかかる作業となっています。しかしこの作業は、会員同士の親睦を深めるのには、ちょうどよい作業のようです。

昨今、「六夜会」でも押し寄せる高齢化の波にのみ込まれつつあります。会員数が最盛期の約半数になってしまうという危機を迎えておりますが、諸先輩方はまだまだ元気いっぱいで頼もしいかぎりです。私はまだ若手ですが、世代交代という大きな壁を前に会長に任命され、戸惑いと不安の中、先輩方に助けられ、指導されながら『次世代を担う六夜会』を作っていくのに、身が引き締まる思いがします。

年々「六夜の炎」がまつり会場から見えづらくなっています。また、見えづらいからなのか、百八ッ火が忘れられているようです。今年のまつだ観光まつり当日は、ぜひ、松田山山頂を見てください。熱い男たちが「六夜の炎」を守り、夜空を焦がしています。

六夜会のメンバー

新連載『松田の文化財探訪』最初のシリーズは《歴史的石造物》

①歴史的石造物とは

歴史的石造物とは、古い時代から今に残るいわゆる石仏、石塔、石碑のたぐいです。

松田町には、石仏四天王ともいうべき道祖神、庚申、観音（特に馬頭観音）、地蔵をはじめとして、五輪塔、宝篋印塔、万霊塔、稲荷大明神、堅牢地神、不動明王、名号塔、寒念仏塔、富士講碑（浅間大神、仙元大菩薩、木花開耶姫、北辰妙見星他）結界石、天社神、土后神、月待塔（二十六夜塔他）、風神、水神、山の神、第六天、弁天、青面金剛、山王権現、巡礼供養塔（百番観音、六十六部廻国供養塔）、牛頭天王、忠魂碑、各種顕彰碑、道しるべ…など、数えあげればきりがないほど、多種多様の歴史的石造物が豊富に残存しています。

これらは、おおむね町内の道端、地域の境、寺社の入り口や境内などにひっそりと散在していますが、現代人の私たちにも何かしら訴えかけたり、心安らぐものがあります。

この《歴史的石造物》シリーズでは、当町の代表的な石造物を選び、今回を含めて10回に分けて連載の予定です。

郷土の歴史や伝統文化の具体的理解の一助となりますよう執筆します。多くの方々が当シリーズに関心を寄せられ、お目を通していただければ幸いです。

次回は「②道祖神」の予定です。

松田の文化財探訪

「歴史的石造物その１」

町文化財保護委員　平賀康雄

籠場橋たもとの石仏